

令和5年度入学 社会福祉学部 社会人選抜 試験問題の出典

種別	大問 番号	著者名	著作物名	書名等	版元
小論文	一	堀 薫夫 他	新しい時代の生涯学習 第3版	2018年 P184-187より 一部改変	有斐閣

社会福祉学部

小 論 文 (90分)

注 意 事 項

1. 試験開始の合図があるまでは、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. この冊子は、2ページあります。なお、下書き用紙が2枚あります。
3. 試験中に問題冊子及び解答用紙の印刷不鮮明、ページの脱落などがあつた場合は、手を挙げて試験監督者に知らせなさい。
4. 解答は、必ず黒鉛筆（シャープペンシルも可）で記入し、ボールペンや万年筆などを使用してはいけません。
5. 解答用紙には、氏名及び受験票と同じ受験番号を忘れずに記入しなさい。
6. 解答は、必ず解答用紙の指定された箇所に記入しなさい。
7. 下書きの必要があれば、下書き用紙を利用してかまいません。
8. 試験終了後、問題冊子と下書き用紙は持ち帰りなさい。

次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。(配点 100 点)

今日では、マスコミは、人口の高齢化に関連した社会問題をよく報道します。高齢者介護や認知症の問題、施設入所、相続税、孤独死や老人虐待など。しかし、まず知っていただきたいのは、多くの高齢者は、「健康な」生活をしているのだということです。多少の持病をかかえたりすることはあっても、高齢者のほぼ 85%は「自立した」人たちだともいわれています。たしかに厳しい高齢者問題があることはまぎれもない事実です。しかし、一方で、「高齢者は弱者だから保護をしなければ」と単純に考えてしまうこともまた問題なのではないでしょうか。若者が想像している以上にたくましく元気に生活している高齢の人たちも多いのです。また最近では介護予防活動として生涯学習をとらえる動向も出てきていますが、介護予防に解消されない教育や学習の独自性も考えていく必要があるようにも思えます。

ところで、65歳から高齢者という考え方には、それほど強い根拠があるのではないのです。最近では日本老年学会らが75歳高齢者説を出しています。極論すれば、高齢者や老人という言葉は、社会や文化がつくりだした概念なのであって、世界には老人という概念のない社会も存在するといわれています(ただ年をとった人がいるだけなのです)。年齢にこだわりすぎないようにしつつ、高齢期と学習の関連の問題を考えていくほうがいいでしょう。

ところで最近「エイジング」(aging)という語をよく耳にします。この言葉にはどういう意味があるのでしょうか。中年期から高齢期にかけての、老いや年をとることと近い意味だといってもさしつかえないでしょう。しかし、英語圏では、この言葉には、若干独自の意味が込められているともいわれています。

かつては、人生後半部を形容する単語としては、senility や senectitude や senescence といった「老衰」や「老化」という意味合いの強い語が用いられていました。しかし、これでは人生の後半部を初めからバイアスをかけてみることにつながり、ひいては、エイジズム(年齢差別)にもつながりかねないともいわれました。これに対して、「年をとる(age)」にingのついたエイジングという語のなかには、人生の後半部をニュートラルで自然な観点からとらえようとする姿勢があるといえます。ですから、この語を用いて人生後半部を語ることで、高齢期のプロセスと経験を、あるがままの自然な現象としてとらえる姿勢が示されたといえるでしょう。年をとって白髪が出たり、体力が低下したりすることがあっても、これらをネガティブにとらえるのではなく、自然な人間的な現象としてとらえていくのです。

もうひとつ押さえておくべきことがあります。それは、エイジングや老いというプロセスのなかには、本来的にプラスの、あるいはポジティブな意味も内包されているという点です。ビールやワインを発酵させてまるやかな味を出させることもエイジングといいますし、老酒という語の老にはネガティブな意味合いは込められていないでしょう。アンチ・エイジングに対してポジティブ・エイジングという用語も出てきています。私たちのまわりにおいても、年をとって成熟したといえる人を探すのは、それほど難しいことではないはずです。

エイジングのプラスの側面を引き出すこと、ここに高齢者に対する生涯学習のひとつの方向があるといえます。しかし、高齢者の学習や教育という場合、従来の学校教育における学習や教育のあり方とは決して同じではない点には留意がいられます。といいますのも、高齢者の学習においては、多くの場合、学習を実践

する人たちのほうが、その指導者や講師の人たちよりも年長であることが多く、先行世代が次世代に文化遺産を伝達するという視点からの学習や教育を考えにくくなるからなのです。将来の生活の準備のための学習や、就職・進学のための勉強という要素も弱くなります。高齢者の学習や教育には、それ独自の学習観や教育観が必要なのです。

ここで学習 (learning) という言葉のもともとの意味を考えてみましょう。学習という語は、知識や技能を習得するという意味合いで使われることが多いのですが、本来この語は、「経験による行動の変容」を意味します。いろいろな環境にふれあうなかで、私たちは多くの経験や活動を行います。この経験や活動の蓄積が私たちの行動様式や内面世界を徐々に変えていきます。これが学習の本来の意味なのです。ですから高齢者の学習とは、高齢者の特性を考慮して、その生活を豊かにしていく方向に、その経験を組み替えていくことだともいえるでしょう。またたとえば、中学生が下校時にゲームセンターに立ち寄るのはあまり教育的な行為だとはいわれませんが、高齢者が仲間とこうした場所で活動するのは、脳の活性化や孤立化防止という意味では、学習だと考えることもできます。高齢者の生活に即して考えるならば、新たな学習の可能性も開けてくるでしょう。

では、高齢学習者の大きな特性とはどのようなものなのでしょうか。その大きな特徴のひとつは、人生経験を多くもっているということです。戦争経験など必ずしも好ましいとはいえない経験が含まれていることもあります。ともかく経験の量と多様性という点では、若者よりも豊かだといえます。これを学習の資源として活用しないわけにはいきません。

高齢者のもうひとつの大きな特徴は、老いや死に関連した経験をより身近に経験していることが多いという点です。配偶者や親友を失うという経験は、その人の生活や人生に対する姿勢をより真剣にさせる契機ともなるでしょう。人生の有限性が見え隠れしてくるともいえます。

学習の本来の意味と高齢者の特徴をあわせて考えますと、高齢者の学習は、きわめてユニークな学習であるということになります。つまり、豊富な人生経験と人生の有限性の切迫感との間で芽生える学習なのです。

(関口礼子, 西岡正子, 鈴木志元, 堀薫夫, 神部純一, 柳田雅明『新しい時代の生涯学習第3版』, 有斐閣, 2018年, pp.184-187より, 一部改変)

問1 本文の内容を、400字以上450字以内で要約しなさい。

問2 高齢者の学習の本質について、具体的な例を挙げたうえで、あなたの考えを、700字以上800字以内で述べなさい。